

EP8000 POWER9 S914(9009-41A)/S924(9009-42A)

ファームウェア変更内容と来歴

	変更内容
<p>VL930_116_040 (FW930.30)</p>	<ul style="list-style-type: none"> •AIX 7.2 以降、または VIOS 3.1 以降 を使用するパーティションの起動中に SRC CA000040 で、パーティションがハングする問題を修正しました。この問題は、サーバ装置の電源オンによる起動から、停止せずに 814 日以上経過しているシステムでパーティションの起動または再起動を実施した場合に発生します。この問題が発生する前にサーバを再起動することで問題発生を回避することができます。 •IO アダプタに対するサービスを可能とするための割込みが削減されることにより、IO アダプタの性能低下や IO アダプタ機能の喪失が引き起こされる問題を修正しました。この問題は、パーティションの起動や DLPAR でのパーティションへの IO アダプタ追加が時間をかけて繰り返されることで引き起こされる可能性があります。IO アダプタの性能問題が発生している場合、それを解決するには、この修正を適用し、サーバを再起動する必要があります。 •IO ドロウの FPGA リセットが、Fanout モジュールやオプティカルアダプタでの EEH イベントを引き起こし、IO アダプタが PCIe バスを使用するのを妨げる問題を修正しました。このエラーは、ログに記録される SRC B7006A8D、B7006A8E に関係します。 •IO ドロウ接続経路に関する内部構成品の稼働データを定期的に記録できるようにしました。このデータ収集機能は、システムの通常の使用に影響しません。 •IPL 中にチェックストップが発生した場合に、障害が発生したプロセッサコアの識別と構成削除に失敗する問題を修正しました。SRC B1xxE5xx と拡張ワードの word8 に xxxxDD90 が記録されます。この修正により、被疑部のハードウェアは構成から削除されます。 •稼働中に SRC B7006A22 のエラーが発生した IO ドロウに対して、PCIe リンクの迅速な回復が可能となるよう修正しました。この回復には、稀な状況で 6 分以上かかる場合があります。IO アダプタの障害やサーバの障害に至ることもあります。この修正により、PCIe リンクが回復するか、または、短時間(秒オーダー)で障害として処理できます。クラスタ構成の場合には、障害を検出し、他のホストへの切替え処理が可能となります。 •パーティションを削除した後、そのパーティションに割り当てたメモリがシステムに返却されない問題を修正しました。この問題は、システム構成変更後に、使用可能なメモリが減少する問題を引き起こします。修正後は、システムの IPL により、使用されなくなったメモリが回復されます。 •デコンフィグされた PCIe ホストブリッジ(PHB)配下の IO アダプタ類が、デコンフィグされたものではなく使用可能なリソースとして OS に示される問題を修正しました。 •メモリページの移動処理(ページマイグレーション)時に稀に発生する可能性のあるシステムハングの問題を修正しました。メモリの再配置処理は、メモリ障害処理、メモリの DLPAR、メモリページのリソースプールの管理に関連する通常の操作など、さまざまな要因で発生する可能性があります。 •IO ドロウ接続ケーブル中の単一レーンの障害の場合、「hidden」エラーとしてログに記録していた問題を修正しました。単一レーンの障害の場合には、いつも上記のようになります。また、単一のレーン障害に続いてレーン障害が発生した場合(複数レーンの障害)は、「hidden」エラーではなく、報告対象のエラーとなります。こちらの修正を行わない場合、単一レーン障害は「hidden」または「informational」レベルとなりますので、障害ハードウェアに関する情報を収集して調査する必要があります。 •パワーキャップ機能で電力制限を設定している場合、システムの電力制限またはユーザの電力制限を超えたときに、オンチップコントローラ(OCC)がプロセッサ周波数を最適に調整できない問題を修正しました。業務負荷により電力が上限を超えると、プロセッサ周波数が大きく変動し、プロセッサチップが最小周波数に固定化してしまう可能性があります。この修正により、OCC はプロセッサ周波数を変更したときに新しい電力測定値を待ち、すべてのプロセッサを同じ周波数に維持するためにマスターパワーキャッピング周波数を使用するようになりました。この問題の回避策として、電力の上限を設定しない、あるいは、システムの電力制限を超えるような負荷をかけない、などがあります。 •障害が発生したプロセッサコアで起動処理を行ったときに、SRC B150BA8D を出力してセルフブートエンジン(SBE)が停止する問題を修正しました。この現象が発生すると、障害コアがデコンフィグされないため、エラーが残ります。このエラーから回復し、IPL できるようにするためには、障害コアを手動でデコンフィグする必要があります。この修正により、障害コアはデコンフィグされ、他のコアを使用してシステムが IPL できるようにするため、SBE が再構成されます。 •パーティションの起動または DLPAR による仮想プロセッサの追加を行った場合に、パーティションのクラッシュやハングが発生する問題を修正しました。パーティション起動については、一つのパーティションにすべてのリソースを割り当てた構成の場合にのみ発生可能性があります。また、DLPAR の場合にこの問題が発生する可能性は極めて稀となります。 •65535 以上の論理メモリーブロック(LMB)を持つパーティションで、DLPAR によるメモリ削減に失敗する問題を修正しました。LMB が 16MB で搭載メモリ容量が 1TB 以上の場合、または LMB が 256MB で 16TB 以上の場合に、このエラーが発生する可能性があります。DLPAR 後にパーティションをリポートすることで、パーティションから指定のメモリが削除されます。 •稼働中のプロセッサコアのデコンフィグ処理が正しく実施されない問題を修正しました。このデコンフィグ実

	<p>施時には、SRC B700F10B が記録されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャットダウン中にパーティションがハングして、SRC B200F00F が記録されたときに、サーバがハングします。このとき HWMC 上でサーバが「Incomplete」状態となる問題を修正しました。この問題は、当該パーティションでの非同期 NX アクセラレータジョブ(gzip のような)が、クリーンアップに失敗したことが発生契機となります。これはインターミットに発生する問題であり、パーティションのシャットダウンを実施しなければ発生しません。 ・EXP ケーブルを指摘する SRC B7006A99 を、informational のログから Predictive のログに変更するよう修正しました。 ・以下のエラーが発生したときに、パーティションがクラッシュまたはハングする問題を修正しました。 <ol style="list-style-type: none"> 1) SRC BA33xxxx : メモリの割り当てと管理のエラー 2) SRC BA29xxxx : パーティションファームウェアの内部スタックエラー 3) SRC BA00E8xx : ライブパーティションモビリティ(LPM)操作中の、ファームウェア初期化エラー こちらは非常に稀な問題となりますが、この問題が発生した場合、エラーから回復するためにパーティションのリブートが必要となります。
<p>VL930_101_040 (FW930.20)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PCI アダプタの DLPAR が失敗した後、パーティションが電源オフになると、システムクラッシュが発生し、HWMC が「Incomplete」状態になる問題を修正しました。このシナリオは、PCI アダプタの稼働時保守中に発生する可能性があります。DLPAR が失敗すると、アダプタのページテーブルマッピングがアクティブのままになり、パーティションの電源切断時に問題が発生する可能性があります。システムがクラッシュしなかった場合でも、IPL が実行されるまでは、DLPAR をリトライしても失敗します。 ・サービスプロセッサの ASMI で、ハードウェアマネージメントコンソール(HWMC)のユーザパスワードを変更した後、サーバが HWMC 上で「Incomplete」状態となる問題を修正しました。この問題は、サービスプロセッサでは HWMC のパスワードが変更されたのに、HWMC では変更されず、さらに、サービスプロセッサのリセットが発生した場合に発生します。修正により、HWMC の古いパスワードを更新する必要があることをユーザが認識できるよう、HWMC は「failed authentication (認証失敗)」エラーを取得できるようになります。 ・プロセッサ障害発生後の自動 IPL で、全てのプロセッサがデコンフィグされる(構成から削除される)プロセッサコア障害が発生する問題を修正しました。この問題が発生した場合、SRC B150BA3C および BC8A090F がログに記録されます。再度 IPL すると、不良プロセッサコアのみが使用されない状態となり、それ以外のプロセッサは回復します。 ・SRC 11007611、110076x1、1100D00C、110015xx がログに記録され、IPL に失敗する問題を修正しました。サービスプロセッサは、このインターミットなエラーに対してリセット/リロードを行ない、停止状態になることがあります。 ・Removable EXchange (RDX)ドッキングステーションのロケーションコードが P1-P3 として誤って報告される問題を修正しました。正しいロケーションコードは Un-P3 です。この問題は、S914 および S924 モデルにのみ関係します。 ・ある専用プロセッサパーティションから DLPAR でプロセッサを削除すると、専用プロセッサパーティション(注)では、プロセッサコアを使用できなくなる問題を修正しました。このエラーは、プロセッサの DLPAR の後に、firmware assisted dump または Live Partition Mobility (LPM) 操作が行われた場合に発生する可能性があります。サーバの再 IPL により、プロセッサ・コアが再度使用可能となります。 (注)サーバ内の全ての専用プロセッサパーティションが対象。プロセッサを削除したパーティションもその他のパーティションも含む。 ・同じ I/O ドロウにクロックエンハンス版ファンアウトモジュール(#EMXH)と、従来版ファンアウトモジュール(#EMXF、 #EMXG)を混載し、EMX0 の I/O ドロウでサポートされない構成となった場合に、SRC B7006A96 を記録し、ファンアウトモジュールの FPGA 故障のエラーが発生する問題を修正しました。このとき、クロックエンハンス版#EMXH の FPGA が従来版のファームウェアによって書き換えられて機能なくなり、ファンアウトモジュールは使用できなくなります。修正により、サポートされない構成が検出され、クロックエンハンス版ファンアウトモジュールの FPGA に害を及ぼすことなく正常に処理されます。 ・デバイスのタイムアウトやプログラムプロセスのディスパッチの遅延を引き起こす可能性のある、割り込みが失われる問題を修正しました。これは、HWMC の optmem コマンドによって行われるミラーリングされたメモリのデフラグや、システムの通常の稼働中にメモリエラーの回復処理の一部として行われるメモリガーディング(故障箇所を使用しないようにする処理)など、パーティションのメモリ再配置が必要なメモリ操作中に発生する可能性があります。 ・シャットダウン中にハイパーバイザのエラーが発生する問題を修正しました。このエラー発生時、B7000602 の SRC がログに記録され、サーバは HWMC 上で一時的に「Incomplete」状態になる可能性があります。シャットダウンは成功します。シャットダウン中にこのエラーが発生しても、サーバは問題なく電源が再投入できるので、このエラーは無視できます。 ・POWER8、POWER9_base、POWER9 プロセッサ互換モードで動作しているパーティションのディスパッチ遅延の問題を修正しました。
<p>VL930_093_040 (FW930.11)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・IPMI コアダンプと SRC B181720D のエラーが発生し、メモリ不足によりサービスプロセッサがリセットされる問題を修正しました。サービスプロセッサのメモリ不足は、ipmitool を頻繁に使用してネットワーク構成を読み取ることによって引き起こされます。サービスプロセッサはこのエラーから回復しますが、15 分以内に 3 回発生すると、サービスプロセッサはハング状態となります。このとき、SRC B1817212 がログに記録されます。サービスプロセッサがハングした場合でも、OS は引き続き動作しますが、HWMC がパーティションの管理や操作をすることはできません。このサービスプロセッサのハング状態は、サーバを停止して、再度 IPL することで回復できます。 ・Advanced System Management Interface (ASMI)メニューで、「PCIe Hardware Topology / Reset link」が誤

	<p>った値で表示される問題を修正しました。この修正を適用しない状態の場合、この値は常に間違っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> •PLL がロックされないエラー (SRC B124E504) が発生したときに、副次的に内部ファームウェアソフトウェア障害(SRC B181E580) を引き起こし、誤った FRU を指摘する問題を修正しました。 •誤って DIMM の高温異常を指摘する問題を修正しました。この高温異常のエラーログは、正常な DIMM、DIMM コントローラ、メモリバッファを誤って故障指摘する可能性があります。 •uncapped(上限なし)モードの共有プロセッサパーティションが使用可能なプロセッササイクルを十分に消費できなくなる場合がある、共有プロセッサプールの問題を修正しました。この問題は、その共有プロセッサプールを使用する複数のパーティションに割り当てられた processing unit の合計が、プールの processing unit の最大値と等しい場合に発生することがあります。 •LPM データの暗号化と圧縮をサポートしていないサーバから Live Partition Mobility (LPM) を実行すると、ターゲット側サーバでハイパーバイザのハングが発生する可能性がある問題を修正しました。ハングが発生すると、ターゲットサーバは、HWMC 上で「Incomplete」状態になります。この障害は、ソース側パーティションからのデータが特定のパターンでのみしか発生しないため、発生頻度はまれです。この障害が発生すると、SRC B182951C がターゲット(デスティネーション)側サーバでログに記録されます。また、ソース側パーティションを管理する HWMC は、以下のメッセージを出力します。 「HSCLA318 The migration command issued to the destination management console failed with the following error: HSCLA228 The requested operation cannot be performed because the managed system <system identifier> is not in the Standby or Operating state.」 回復するには、ターゲットシステムを再 IPL する必要があります。 •大容量メモリの LPAR をライブパーティションモビリティ (LPM) でターゲットサーバに移動すると、ターゲットサーバがクラッシュし、HWMC 上で「Incomplete」状態になる問題を修正しました。デフォルトの LMB サイズ (256MB) のサーバの場合、パーティションのデータ量が 16TB 以上で、desired と maximum のメモリ容量が異なる場合、ターゲットサーバで LPM が失敗することがあります。LMB サイズがデフォルトよりも小さいサーバは、より小さいメモリサイズのパーティションでこの問題が発生する可能性があります。大きなメモリのパーティションを移動する場合に、desired と maximum のメモリ容量を同じ値に設定することで、この問題を回避することができます。 •IPL 中に、SRC BC70E540 および 「mcb(n0p0c1) (MCBISTFIR [12]) WAT_DEBUG_ATTN」のメッセージとともに、誤ってメモリエラーが記録される問題を修正しました。このとき、ハードウェアの故障部位は指摘されません。このエラーログは無視できます。 •異なるメモリ容量の DIMM を搭載した後、メモリアクセスエラーを引き起こし、IPL に失敗する問題を修正しました。修正を適用しない状態の場合、同じ容量の DIMM のみを使用するようにメモリ構成を変更する必要があります。 •メモリ DIMM の搭載ルールに違反している場合に、IPL を終了させ、RC_GET_MEM_VPD_UNSUPPORTED_CONFIG IPL のエラーログを出力し、メモリポートを故障指摘するけれども DIMM の故障指摘はなく、DIMM のデコンフィギュレーションも行われなかった問題を修正しました。修正により、搭載ルール違反の DIMM は構成から除かれて、IPL が完了します。ファームウェアを更新しない場合、IPL が可能となるようにメモリ構成を変更する必要があります。 •クロックエンハンス版ファンアウトモジュール (#EMXH) が搭載された拡張 I/O ドロウ (#EMX0) で、SRC B7006A22 の回復可能エラーが発生する問題を修正しました。これは、電源オフ状態から IPL した後、2 時間以内に発生する可能性があります。また、ファンアウトモジュール (#EMXH) を搭載したシステムの IPL で発生しやすい傾向にあります。このエラーは自動的に回復されますが、エラー発生後にパーティションの起動に失敗した場合は、パーティションの再始動が必要です。 •不良ビットを動的に修復したメモリを搭載したシステムで、メモリ帯域幅が低下する問題を修正しました。 •サービスプロセッサの IPMI コアダンプが断続的に発生する問題を修正しました。これは、複数の IPMI セッションで、開始とクリーンアップが同時に発生した場合にのみまれに発生します。新しい IPMI セッションは、そのセッションオブジェクトの 1 つが誤ってクリーンアップされると、初期化に失敗する可能性があります。回避策は、失敗した IPMI コマンドを再試行することです。 •SRC B181E540 (NCU Powerbus data timeout) がログに記録され、IPL が失敗する問題を修正しました。FRU の故障指摘はされません。自動的な再 IPL が成功した場合は、このエラーを無視してもかまいません。発生頻度は非常にまれです。この修正は、過去にリリースされた修正に関する追加の修正です。以前の修正では、Powerbus 割り込みが、すべてのケースで適切に処理できていなかったため、タイムアウトの問題が引き続き発生していました。
VL930_068_040 (FW930.03)	<ul style="list-style-type: none"> •オペレーティングシステムまたはハイパーバイザの終了、アプリケーションのセグメントの障害、ハング、または検出されないデータの破損などが発生する可能性がある問題を修正しました。現在までに見られた唯一の問題は、オペレーティングシステムまたはハイパーバイザの終了です。 •ライブパーティションモビリティ (LPM) 時にまれにパーティションエラーが発生する問題を修正しました。LPM のターゲットシステムが FW 930.00、FW 930.01 または FW 930.02 である場合パーティションがクラッシュする場合があります。回復は、クラッシュの後にパーティションを再起動することです。 •SAS パスの閉塞や縮退が発生し、7D83400、2D36-3109、57D84040、2D36・4040、57D84060、2D36・4060、57D84061、2D36・4061、57D88130、2D36、FFFE、SRCs、xxxxFFFE、4061 等の SRC や SRN が発生する問題を修正しました。これらのエラーは、2 つの高パフォーマンス DASD バックプレーン (フィーチャー・コード #EJ1M および #EJ1D) にインストールされたハード・ドライブおよびソリッド・ステート・ドライブに断続的に発生します。この問題は、9009-41A および 9009-42A の各モデルにのみ発生します。更新しない場合、エラー発生時に該当の DASD バックプレーンを取り替えることとなります。

<p>VL930_048_040 (FW930.02)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ PCIe3 拡張ドロー(#EMX0) のクロックエンハンス版ファンアウトモジュール(#EMXH)の不良リンク問題によって、B700F103 が記録されシステム障害を引き起こす問題を修正しました。このエラーは、IPL (サーバパワーオン中)に発生する可能性があります。 ・オンチップコントローラ (OCC) 電源キャッピング動作のタイムアウトによって SRC B1112AD3 が記録され、システムがセーフモードになり性能が劣化する問題を修正しました。この問題は、OCC 電力キャッピングが必要な高電力消費でシステムが稼働している場合にのみ発生します。 ・PCIe3 拡張ドロー(#EMX0)のクロックエンハンス版ファンアウトモジュール(#EMXH) 構成時、HWMC または ASMI で、「PCIe Hardware Topology (PCIe トポロジ)」オプションを実行すると間違ったケーブルパーツ番号を表示する問題が修正されました。正しくない部品番号のケーブルが拡張 PCIe3 拡張ドロー構成に使用されている場合、ハイパーバイザは、無効な構成を示す PRC 4152 の B7006A20 をログに記録します。 ・システムの電源がオフ(サービスプロセッサスタンバイ状態)の時に、システムの時計がドリフトする(時計が少しずつ遅れていく)問題を修正しました。システムの電源がオフになっている時間の長さ按比例して、タイムラグが増加します。
<p>VL930_040_040 (FW930.01)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスプロセッサに無効な時間が設定された状態でシステム を IPL するとパーティションが 01/01/1970 の初期日付にリセットされる問題を修正しました。この修正によって、ハイパーバイザが IPL 時にサービスプロセッサのリアルタイムクロックが無効であることを検出したときに B788120x をパネルに表示し、ユーザが時刻と日付を訂正できるように IPL を停止します。拡張システム管理インターフェース (ASMI) を使用して、サービスプロセッサの時刻と日付を訂正することができます。次の IPL 時に、時刻と日付が訂正されていない場合、ハイパーバイザは SRC B7000611 (システムクロックが異常であることを示す)をログに記録しますが、時刻と日付は初期値のままパーティションを開始します。 ・データの破損が検出されない可能性のあるシナリオに対処するために、問題が解決しました。 ・USB ポートに間違ったロケーションコードが割り当てられている問題が修正されました。「P1-T4-L1 USB DVD R/RW または RAM ドライブ」のロケーションコードは、「P1-T3-L1」である必要があります。USB DVD は正常に動作しますが、エラーログなどの位置コードが誤った場所コードとして表示されることが報告されています。FW 910.20 のこの問題に対する以前の修正には、修正プログラムのハイパーバイザ部分がなかったため、修正プログラムが適用された後もエラーが発生しました。 ・SRC B181E540 (ex(n2p1c0) (L2FIR[13]) NCU Powerbus data timeout)を記録して IPL が失敗する問題を修正しました。FRU は指摘されません。再 IPL が成功したら、本エラーを無視できます。発生頻度は非常に低いです。 ・IPMI セッションがクローズしたときに SRC B1818601 が記録されて IPMI コアダンプが発生する問題を修正しました。本エラーが発生すると、大量の SRC B1818A03 が採取される可能性があります。IPMI サーバは、影響を受けず、問題がコールホームされます。この問題で IPMI ユーザのサービスが停止することはありません。 ・High Frequency Trading (HFT) Policy が選択されている(オンチップコントローラ (OCC) を無効にする)が、コアネスト周波数を最大レベルに設定することをサポートしていないためにプロセッサが低い周波数及び電圧で動作する問題を修正しました。本修正を適用すると、Advanced System Management Interface (ASMI) に High Frequency Policy メニューが表示されなくなり、ユーザは設定できなくなります。 ・エラーが発生したプロセッサチップのデコンフィグが失敗し、SRC B138E504 を記録して PCIe ハブがチェックストップする問題を修正しました。 修正を適用することで、問題のハードウェアはデコンフィグされるため、次の IPL 時にエラーが再発することはありません。 ・Advanced System Management Interface (ASMI)でデコンフィグされた FRU を「Unknown(不明)」のユニット・タイプとして表示する問題を修正しました。デコンフィグされると、以下に示す FRU タイプ名が表示されます。 DMI: Processor to Memory Buffer Interface MC: Memory Controller MFREFCLK: Multi Function Reference Clock MFREFCLKENDPT: Muti function reference clock end point MI: Processor to Memory Buffer Interface NPU: Nvidia Processing Unit OBUS_BRICK: OBUS SYSREFCLKENDPT: System reference clock end point TPM: Trusted Platform Module ・DDR4 2933 MHZ および 3200 MHZ DIMM が 2666 MHZ の速度に違反しているため、システムが IPL できない問題を修正しました。 ・サービスプロセッサが大量の B181A803 (IPv6 および IPv4 キーワードのレジストリの読出しを失敗したことを示すインフォメーションエラー)を引き起こす IPMI セッションの問題を修正しました。これらのエラーログは実際の問題ではなく、無視できる可能性があります。 ・HWMC に VIOS パーティションが AIX パーティションと報告することがある問題を修正しました。VIOS パーティションは、誤認であっても正しく使用することができます。 ・専用プロセッサパーティションのプロセッサ共用モードを「allow when partition is active」から「allow when partition is inactive」あるいは「never」へ変更した後に共用プロセッサパーティションが応答なくなる問題を修正しました。この問題は、専用のプロセッサパーティションがアクティブなときにプロセッサの共有を無効にすることを避けることで回避できます。問題が発生した場合に復旧するには、専用パーティションの「processor sharing when active」を有効にします。

	<ul style="list-style-type: none"> ・断続的な PCIe 修正可能エラーが最終的にしきい値となり、SRC B7006A72 がログに記録される問題を修正しました。PCIe のパフォーマンス低下または、SRCs B7006970 や B7006971 を記録して PCIe I/O スロットが一時的に使用不能になる可能性があります。 ・I/O アダプタで低レベル EEH エラーが複数同時に発生したときに SRC BA2B000D や SRC BA188002 と B7006A22 が記録され、恒久的な EEH エラーとなる問題を修正しました。影響を受けるアダプターは、システムの再 IPL によって回復することができます。この修正により、アダプターは同時エラー状態からリセットして回復することができます。この問題の発生頻度は低いです。 ・IPL 中に発行されたハイパーバイザエラーログにファームウェアバージョンがない問題を修正しました。これは、IPL の初期の部分でログが生成されるたびに発生します。 ・PCIe Advanced Error Reporting (AER) 訂正エラーが閾値上限を超えた後に継続して B7006A28 を記録する問題を修正しました。エラーログのオーバーフローにより、エラーバッファのラッピングやその他のパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。 ・virtualized Trusted Platform Module (vTPM)を有効で、SRC B7000602 を記録したパーティションを削除するときにエラーが発生する問題を修正しました。このエラーが発生すると、ハイパーバイザの暗号化プロセスが使用できなくなる可能性があります。この問題は、システムの再 IPL を行って回復することができます。 ・共有プロセッサプールへの Live Partition Mobility (LPM) で、パーティションがターゲットシステムで Uncapped のサイクルを消費できない問題を修正しました。パーティションをデフォルト共有プロセッサプールに移行し、共有プロセッサプールに動的に移動することがこの問題を回避できます。この問題からリカバリするには、DLPAR を使用して、影響を受けるパーティションとの間の仮想プロセッサの追加または削除、共有プロセッサプール間のパーティションの動的移動、パーティションの再起動、またはシステムの再 IPL を行います。 ・PCIe ハブ (PHB) のインフォメーション (INF) エラーが閾値上限に達したときに I/O スロットが動作不能になる問題を修正しました。システム I/O は、再 IPL によって回復することができます。 ・24 時間 365 のパフォーマンスモニタによって収集された PCIe ホスト・ブリッジ (PHB) パフォーマンスカウンタのエラーを修正しました。 ・プロセッサ構成変更またはパーティションの電源のオン/オフ後に、パーティションが応答しなくなったり、HWMC と接続できなくなったりする問題を修正しました。 ・同じシステムへの 8 つ以上同時の Live Partition Mobility (LPM)が、HWMC にメッセージ「HSCLO273 A command that was targeted to the managed system has timed out」を表示して失敗する問題を修正しました。 ・2TB より大きく、「READ CAPACITY 16」の 0 以外の割り当てに準拠するデバイスドライバを持つ N_PORT ID Virtualization (NPIV) LUN を使ったブートが失敗する問題を修正しました。パーティションファームウェアは、データの戻り値として、以前のデバイスドライバによって受け入れられた、無効な 0 の長さを常に使用していました。今、新しいデバイスドライバのいくつかは仕様に準拠しており、ブートを続行するために 0 以外の割り当て長を必要としています。 ・ISO/IEC 13346 フォーマットイメージ (ユニバーサルディスク形式 (UDF) と呼ばれます) からの起動に失敗する可能性がある問題を修正しました。 ・まれにプロセッサコアを指摘する B181345A、B150BA22、BC131705、BC8A1705、または BC81703 が記録され、IPL が失敗する問題を修正しました。これはまれなエラーであり、実際のハードウェア障害がないため、次の IPL でプロセッサコアをデコンフィグクリアして再び使用することができます。 ・「Get Sensor Reading」が機能していない場合、インフォメーションログを大量に記録する問題を修正しました。 ・ハイパーバイザのタスクがデッドロックし、SRC B200F011 を記録して HWMC へ応答しなくなる (HWMC 上は Incomplete ステータスに見える)問題を修正しました。これはまれなタイミングエラーです。この問題により、OS は引き続き稼働を続けますが、HWMC がパーティションと通信することはできません。このエラーは、システムの再 IPL を実行することによって回復することができます。 ・ブロードキャスト bootp インストールまたは boots が UDP チェックサムエラーによって失敗する問題を修正しました。 ・USB RDX ドライブにバックアップされた AIX mksysb からのブートが BA210012、AA06000D、および BA090010 で失敗する問題を修正しました。シリアルコンソールを使用して SMS メニューをナビゲートする場合、ブートエラーは発生しません。 ・I2C バスのスタックによって、FRU の VPD が欠損するエラーリカバリの問題を修正しました。この問題が発生した場合、フォールトシグネチャ「IVPD_REASON_IIC_FDAL_READ_FAIL errno 72」を持つ B1561312 SRCs が大量に記録されます。これは、I2C slave が何らかの理由で動かなくなった場合に発生するまれな問題です。この問題から回復するためには、A/C 電源を再投入します。この修正により、ユーザの介入なしで I2C バスがリセットされ、FRU の読み取りが正常に完了するまで再試行されるようになります。
VL910.127.127 (FW910.21)	<p>本 FW バージョンは、S914/S924 専用です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規リリース